親による子どもの動機づけの認知と子どもの動機づけとの関連について

APIM による縦断的検討

○福住紀明^{1・6}・村山航^{2・6}・石井僚³・石川信一⁴・大谷和大⁵・榊美知子^{2・6}・鈴木高志⁶・田中あゆみ⁴⁽¹⁾高知大,教育部門・⁽²⁾Dept. Psychology, Univ. Reading・⁽³⁾奈良教育大,学校教育講座・⁽⁴⁾同志社大,心理学部・⁽⁵⁾北大,大学院教育学研究院・⁽⁶⁾高知工科大,共通教育教室)

キーワード: 基本的心理欲求理論, APIM, 親子関係

The relationship between Parent's basic psychological need satisfaction and children's basic psychological need satisfaction

Noriaki FUKUZUMI¹, Kou MURAYAMA^{2,6}, Ryo ISHII³, Shinichi ISHIKAWA⁴, Kazuhiro OHTANI⁵, Michiko SAKAKI^{2,6}, Takashi SUZUKI⁶ and Ayumi TANAKA⁴⁽¹⁾ Educ. Unit, Kochi Univ., ⁽²⁾ Dept. Psych., Univ. Reading, ⁽³⁾ Nara Univ. Educ., ⁽⁴⁾ Faculty of Psych., Doshisha Univ., ⁽⁵⁾ Graduate Sch. Educ., Hokkaido Univ., ⁽⁶⁾ Core Studies, Kochi Univ. Tech.)

Key Words: Basic psychological need satisfaction, Actor-Partner Interdependence Model, parent-child relationships

目 的

基本的心理欲求理論 (Deci & Ryan, 2000) では, 3 つの基本的心理欲求 (自律性・関係性・有能感) が充足されることで, 精神的健康が高まるとされる。親子関係の文脈では, 親による自律性支援などの養育行動によって, 子どもの自己開示を媒介して親による子どもの行動や精神的健康の認知に影響することが報告されている (Mageau et al., 2016; Soenens et al., 2006)。

しかしながら, 子どもに対する基本的心理欲求充足の認知と, 親による欲求充足の認知の関連についてはほとんど検討されていない。そこで, 本研究では, Actor-Partner Interdependence Model (APIM: Cook & Kenny, 2005) を縦断調査に用いることで, Time 1 と Time 2 の Actor 効果を統制し, 親による子どもの欲求充足の認知と子どもの欲求充足の Partner 効果を検証することで, 双方向的な効果を明らかにすることを目的とする。

方 法

調査協力者と手続き 調査会社に登録されている親子を対象に調査を行い, 2 回の調査に参加した親 147 名 (父 34 名, 母 113 名) とその子ども 147 名 (男子 64 名, 女子 83 名; $M_{age} = 14.99$ 歳, $SD = 0.85$) を対象とした。郵送法による質問紙調査を調査会社に委託して行った。

欲求充足尺度 Nishimura & Suzuki (2016) が作成した BPNSFS から, 自律性への欲求充足 (例: 私はやりたいことを自由に選んでいると感じている), 関係性への欲求充足 (例: わたしが気に掛けている人は, 私のことも気に掛けてくれていると感じている), 有能さへの欲求充足 (例: 私は, たいいていのことを, うまく行う自信があると感じている) の三因子を用いた。各因子はそれぞれ 4 項目 5 件法で構成される。親と子どもに尋ねた。親については, 子どもが考えていることを想像して回答することを教示して, 親が子どもの欲求充足をどの程度認知できているかについて測定した。

統制変数 属性として, 親には子どもとの続柄 (回答者が父親か母親か), 父母の年齢, 父母の学歴を尋ねた。子どもには, 性別と年齢を尋ねた。学業成績は, 田中・山内 (2000) を参考に 5 教科 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語) の成績を 7 件法で子どもに尋ねた。5 教科の加算平均を学業成績の得点として用いた。

結 果

親子の性別と年齢, 親の学歴, 子どもの学業成績を統制した上で, APIM による分析を行った。Time 1 の親による子どもの欲求充足の認知と子どもの欲求充足の Actor 効果を統制した上で, Time 2 の親による子どもの欲求充足の認知と子どもの欲求充足に対する Partner 効果について検討を行った (Table 1)。その結果, 各欲求充足において, 親による子どもの欲求充足の認知から子どもの欲求充足に有意な正の影響を与えることが示されたが, 子どもの欲求充足から親による子どもの欲求充足の認知には, 有意な正の影響が確認されず, 子どもの欲求充足のみに Partner 効果が示された。

考 察

APIM の結果, 親による子どもの欲求充足の認知が子どもの欲求充足に影響を与えることが示された。親の期待効果として子どもの動機づけに影響を及ぼしたと考えられる。今後, 親の子どもに対する養育行動がどのように異なるのかについて検討する必要がある。

Table 1 各欲求充足に対するAPIMの効果

	<i>b</i>	<i>SE</i>	<i>p</i>
Autonomy: Actor Effect			
親 (T1)→親 (T2)	.44	0.08	.000
子 (T1)→子 (T2)	.43	0.07	.000
Autonomy: Partner Effect			
親 (T1)→子 (T2)	.27	0.10	.001
子 (T1)→親 (T2)	.10	0.06	.218
Relatedness: Actor Effect			
親 (T1)→親 (T2)	.53	0.06	.000
子 (T1)→子 (T2)	.37	0.07	.000
Relatedness: Partner Effect			
親 (T1)→子 (T2)	.37	0.10	.000
子 (T1)→親 (T2)	.13	0.04	.067
Competence: Actor Effect			
親 (T1)→親 (T2)	.74	0.08	.000
子 (T1)→子 (T2)	.51	0.07	.000
Competence: Partner Effect			
親 (T1)→子 (T2)	.19	0.11	.047
子 (T1)→親 (T2)	-.05	0.05	.456

Note. SE = standard error, T1 = Time 1, T2 = Time 2.

引用文献

- Cook, W. L., & Kenny, D. A. (2005). The actor-partner interdependence model: A model of bidirectional effects in developmental studies. *International Journal of Behavioral Development*, 29, 101-109.
- Deci, E. L., & Ryan, R. M. (2000). The "what" and "why" of goal pursuits: Human needs and the self-determination of behavior. *Psychological inquiry*, 11, 227-268.
- Mageau, G. A., Sherman, A., Grusec, J. E., Koestner, R., & Bureau, J. S. (2016). Different ways of knowing a child and their relations to mother-reported autonomy support. *Social Development*. Advance online publication.
- Nishimura, T., & Suzuki, T. (2016). Basic psychological need satisfaction and frustration in Japan: controlling for the big five personality traits. *Japanese Psychological Research*, 58, 320-331.
- Soenens, B., Vansteenkiste, M., Luyckx, K., & Goossens, L. (2006). Parenting and adolescent problem behavior: an integrated model with adolescent self-disclosure and perceived parental knowledge as intervening variables. *Developmental psychology*, 42, 305-318.
- 田中あゆみ・山内弘雅 (2000). 教室における達成動機, 目標志向, 内発的興味, 学業成績の因果モデルの検討. 心理学研究, 71, 317-324.

(本研究は JSPS 科研費 JP16H06406 の助成を受けた。)